

ならやま虫だより

菊川 年明

◆ツマキチョウ

飛んでいると、全身が白く見えるチョウで、モンシロチョウより少し小さい。年に1回、春に現れるが、ならやまでは4月中・下旬で、出現期間はかなり短い。

翅の表面はすっきりした白地で、前翅の先端にオスは黄色、メスは灰色の部分があり、前翅の中央部の左右に1対の黒紋がある。

後翅の裏面も白地だが、灰色の網目模様がついているので、枯れ草のところに止まっていると、保護色になって見つけにくい。

名前はオスの前翅の先端の色に由来する。ちなみに「ツマ」の漢字は「棲」で、端を意味する。たいへん可愛らしいチョウで、私は、毎年、このチョウが現れるのを心待ちにしている。

飛んでいる姿を見ると、一見モンシロチョウかなと思うが、少し小さいなと感じ、飛び方も少し違うなと感じる。飛び方はモンシロチョウのように上下に揺れることはなく、ほぼ直線的な飛び方をする。

このチョウの特徴でもあるが、なかなか止まらず、止まっても直ぐに飛び立ってしまうので、間近で見られる機会はあまり多くない。

モンシロチョウほどたくさんはいないが、気を付けていれば、さほど希なチョウでもない。一見モンシロチョウのようであるが、見慣れてくるとモンシロチョウとの違いがわかるようになる。

幼虫の食草はタネツケバナ、ナズナ、イヌガラシなど、栽培種のダイコンなども食べる。



ツマキチョウのオス



ならやま花だより

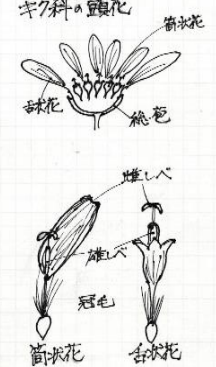
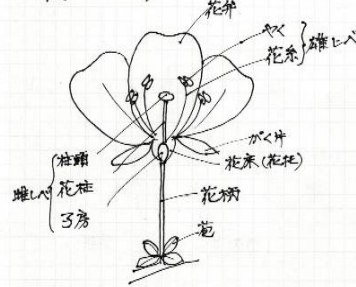
桜木 晴代

枯野から花園へ変化する季節。フィールドはオオイヌノフグリ(右下)ホトケノザ(左上)タンポポ(右上)ヒメオドリコソウ(左下)たちの競演の季節。春の到来を告げる花々です。

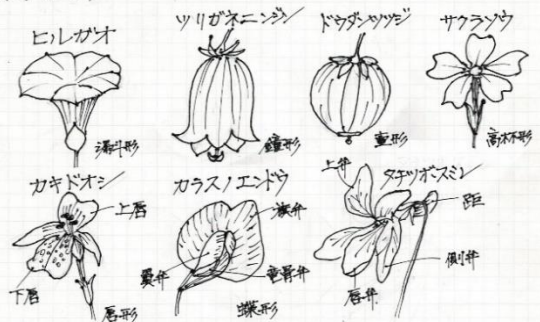


オオイヌノフグリは星の瞳・瑠璃唐草というカレンな別名もあり、日が当たっている時だけ咲く。前号に続き、花の作りと花の形を記します。

花のつくり



花の形



個性豊かなカレンな花たちです。

(図は山と溪谷社等の図鑑から模写しました)